



関東せいうん

北海道函館東高等学校関東青雲同窓会 会報19号

どこで暮らすか、そしてどう生きるのか。
今号は **二拠点を考える** をテーマにしました。



題字揮毫：「関東」＝山名昭二／「せいうん」＝中村隆俊

- 発行日：2026年(令和8年)3月31日
- 発行責任者：幹事長 土肥 健作
- 事務局：〒106-0045 東京都港区麻布十番1-7-8 宮下ビル402号
- 事務局携帯電話：090-4429-6060
- 事務局FAX：03-6804-5085
- 事務局メール：kantouseiun@gmail.com
- 関東青雲同窓会ウェブサイト：<https://www.kantouseiun.com>



Wの刺激

「二拠点」という言葉が一般に使われ始めたきっかけの一つは、言うまでもなくコロナだろう。拠点を二ヶ所構えると言う本来の意味よりも、相手と接触することなくコミュニケーションをとるリモートワークの延長線上でこの言葉が定着した。仕事の拠点を「W」で構えるワーキングスタイルが、イコール「二拠点」の代名詞として社会に浸透したのだ。しかし、在りし日の大橋巨泉氏は、春と秋を日本で過ごし、夏はカナダ、冬はオーストラリアで過ごすという三拠点生活をセミリタイアと言われる56歳から始めたという。猛暑を北米で回避し、冬の寒さを季節が逆転する南半球で回避する贅沢な生活だと、当時心から羨ましく思った。巨泉氏のように三つの国で生活することは不可能だが、コロナよりもかなり前から函館と東京の二拠点暮らしを実践していた私に、周囲の仕事関係者は「夏は涼しい函館で過ごさせていいね」と嫉妬の言葉を寄せていたが、最近では「お宅にエアコンはあるの?」と労いの言葉に変化し、北海道の暑さを心配するようになってきた。

夏だけでなく二ヶ月に一度のペースで函館での拠点生活をおくるようになると、冬は冬なりにこれまで知らなかった道南の魅力と出合えるのも嬉しい。トラピスト修道院を向こうに見て真っ直ぐ続く並木道が雪煙の中に浮かぶ幻想的な光景(本誌表紙:2022年12月17日 横井撮影)は、クリスマスまでの僅か一週間しか見ることができない。丸の内や六本木など、師走の声を聞く前から数千数万のLEDを纏った街路樹に人が集う都会のイルミネーションとは違い、一週間だけの潔さだからこそ心が引き寄せられる。巨泉氏のように冬だから寒さを避けようと東京に居たら、このシャッターチャンスの瞬間には巡り会えなかっただろう。

二拠点生活、つまりデュアルライフは移住とは違う。二ヶ所の暮らしの「いいとこ取り」を味わう多様性の追求であり、いくつもの価値を凝縮した生活スタイルとして、これからますます進化していくはずだ。デュアルライフを通じ、「W」で味わえるものは「都会と自然」という「空間」の違いだけでなく、「時間・瞬間・人間・仲間」を含めた五つの「間」に多様な刺激を受けることだと私は思う。まさにこれは、「東高と市函 青雲と柳星」のデュアル同窓会にも通じる。1984年にヒットした映画「Wの悲劇」でWの意味は何?と話題になったが、二拠点の「W」の意味は、五つの「間」に見え隠れする刺激満載の暮らしだと思いたい。



関東青雲同窓会 会長
横井 透 (東高30回生)



二拠点を考える

2020～

2023年コロナ期間はこれまでの普通の暮らしと将来の生き方を考える試練だったとも言えます。大波を乗り越ったころ、命を守るシステムは大きなフォート(砦)であったがゆえにその後の行動にある程度の制限を生じ、本当に大切な何かを考えるきっかけになりました。大切なものを追い求める道は今や一筋ではなく、いかなる道も求めてよいインフラが整ったのです。

関東青雲

同窓会も新しい形を求めながら躍進するために、心熱き同窓生、年代問わず実践している皆さんにお話を伺います。そして、解き放たれて絆を確かめあった、同期会のご報告をお楽しみください。

学生時代

に培った高揚感とともに故郷を旅立ったあの時と、経験を重ねてここに立つ自分は紛れもない同一人物。都市部からの二拠点生活は時間でいうと2時間半が一つの指針になっているようで、函館はその意味でも関東から範囲内。今までの自分に納得して充実した未来をつかみ取るために、どこでどう生きるのか。

二拠点を考える

二拠点生活で話題になっている函館の近況等について



函館市長
大泉 潤

関東青雲同窓会の皆様におかれましては、昭和59年の創立以来長きにわたり、同窓の皆様との交流と親睦を深め、幅広い分野において活発な活動と郷土発展への貢献を続けられていることに、心から敬意を表しますとともに、日頃より函館市の発展に特段のご支援、ご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年9月、私がオファーしたことでテレビ朝日系「羽鳥慎一モーニングショー」にて「猛暑の中でも涼しいまち」として函館が取り上げられました。全国的に暑さが厳しい中、涼しく快適に過ごすことができ、医療体制の充実した二地域居住に適したまちとして紹介されたことは、本市の魅力

を再認識していただく貴重な機会となりました。

函館は「夏は涼しい」「梅雨がない」「花粉症がほとんどない」という三拍子が揃い、本州の都会から移住や長期滞在を考える人々にとって大きな魅力となっています。加えて空港から市街地までの距離が近く、さらに食あり温泉ありといった他都市に劣らぬ強みを持っています。

このほか、最近、著名人が東京と函館の二地域居住を行っていることが話題となり、市の移住相談窓口にも二地域居住に関する問い合わせが少しずつ寄せられるようになりました。まだ数件ではありますが、令和6年度には0件だったことを考えると、少しずつ関心が広がってきてい

ることを実感しています。

函館市としても人口減少が進むなか、二地域居住者が地域活性化の新たな担い手として活躍することに期待しており、二地域居住促進に向けた取組みの方向性を定める「函館市特定居住促進計画」を策定し、今後の受入体制を整えていきたいと考えておりますので、関東青雲会同窓会の会員の皆様におかれましても、函館市の魅力を発信していただくようお願いいたします。

結びとなりますが、貴会の益々のご発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。





近況報告と二拠点について

青雲同窓会
幹事長 岸 寛樹 (東高42回生)

平素は青雲同窓会本部活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。さて、昨年8月14日の青雲同窓会において、同窓会発足80周年を記念いたしまして、市立函館高等学校の佐紺校長先生出席のもと、記念品の目録を贈呈いたしました。そして、学校側から生徒の暑さ対策で『気化式冷風機』の要望がありましたので寄贈し、今年1月15日、小笠原会長に感謝状が贈られました。

話は変わりますが、今回の会報では「二拠点」をテーマとして、原稿のご依頼をいただきました。私は今、函館を主な拠点として、札幌、東京の三拠点で仕事および諸活動に従事しております。函館は私の出身地としての原点であり、青雲同窓会をはじめとするネットワークや地域との結びつきが今も続いている重要な拠点です。一方、札幌、東京は仕事の拠点として、多様な業務や人との関わ



りを通じ、新たな知見や経験を得る場となっております。

近年は働き方や移動手段の多様化により、特定の地域に限定されない活動が可能となってきました。三拠点での生活は、地方と都市の双方の特性や、課題を客観的に捉える良い機会となっており、それぞれの地域における役割や貢献の在り方を考えるきっかけにもなっております。ちなみに近年、函館も二拠点居住の拠点とする著名人が少しずつ増えてきております。

青雲同窓会においても、函館と札幌、関東が連携し、それぞれの立場や環境を生かしながら活動を進めていくことが、今後ますます重要になるものと考えております。微力ではありますが、その一助となれるよう、引き続き同窓会活動に関わってまいりたいと存じます。

最後になりますが、関東青雲同窓会のみならずのご発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

函館新聞 2026.1.19 掲載
(北海道新聞 2026.2.3にも掲載)



日常にアクセント。同窓会は香辛料。

東海青雲同窓会
会長 板倉 恵美 (東高16回生)

2025年は昭和100年でした。63年という圧倒的に長い昭和の時代でした。人生の半分を昭和に生きた私にとって平成は「あっ!」という間に過ぎてしまった感があります。何気なく

東高校に入学し3年間在籍して、何気なく卒業した私でしたが、東高校で過ごした3年間には思いの外いろいろな思いが詰まっていたんだと、同窓会が巡って来る度に考えさせられます。青雲同窓会に出会えた事で、

今までと「チョット違う景色」を見ることが出来ます。令和も8年を迎え、やはり何気なく生活して行くにしても、その中に「同窓会」という香辛料が加わることは大歓迎です。



札幌同窓会活動の近況

青雲同窓会 札幌支部
支部長 齋藤 晋吾 (東高22回生)

今年9月5日、42回目の「アカシヤのつどい」が開催されます。函館や関東と同じように長い歴史があり、過去の同窓会活動を続けてきていただいた先輩諸氏に敬意を表します。

しかし、私が同窓会を継続していきたいと思っている気持ちと、若い人たちの意識はかなり乖離してきています。大元には函館東高校が無くなったという事もあると思いますが、柳星同窓会生の同期会はあまり開催されていないようです。私たちの22期は、20歳の時1回目の同期会があったことを考えると、市函の卒業生の意識の変化を感じます。最近の年度幹事の話の聞くと、

東高生の意識も同窓会を大事と思う人の割合が年々減少してきていると感じます。「年度幹事が呼びかけても同窓会をやるとういう人の減少」が札幌の悩みとなっています。

もう一つ「参加者の固定化」もあり、全体として規模の縮小という状況となってきています。私たちの前後の卒業生の総会参加人数は、確実に減ってきています。

今年は少し、路線をしっかりと行動していきたいと思っています。

>柳星同窓会との連携強化→専門担当と費用の予算化

>ボウリング、飲み会等イベントの

柔軟運用→個別の希望に応じたイベントの開催

などを行います。また、今私がホームページのアップをやっておりますが、なかなか見てもられない、デザインの変更等が私ではうまく行えない等問題点もあります。

このようなことに対して、各同窓会の皆様のご意見をいただけないかと思っております。

>ホームページを通じた適正な情報の発信方法とその利用の可否

>適正なホームページ費用の検討等を見直したいと考えています。

会報も一般会員の同窓会への参加増や会費増を狙い、かなりのイメージチェンジを行いました。評判は良いのですが、今一步効果については検討を要します。会報は札幌の予算の中では一番大きく、同窓会生が楽しく過ごす姿を会員に見せると言う内容の充実もさることながら、運用についてもまた吟味して行きたいと思っております。



四拠点生活

関西青雲同窓会
会長 細田 雅人 (東高28回生)

青雲同窓会総会にご参加の同窓諸氏が同窓会に参加し続けるためには、健康であることが最低限の条件であり、裏返せば、同窓会参加は、健康のパロメーターとも言えます。

加齢と共に生体は、徐々に機能を低下させますが、その機能を出来る限り維持することは、努力により可能です。

一方で、努力では避けられない事も現実には多いのですが、ややこしい事に新たなリスクが世の中に登場しました。それは、通称 mRNAワクチン、その中身は、特殊なデザインの脂質膜に封入された mRNA (遺伝子)、遺伝子ワクチンです。コロナワクチン接種の

ケースでは、米ファイザーが公表しただけでも1,291種類にも及ぶ後遺症

(自己免疫疾患、免疫不全症、血液疾患、内分泌系疾患、血栓症、心血管病などの突然の発症)があります。そして韓国全国の調査結果を観ると韓国では、6種のがんにおいて発症が確実に増加と報告 (Kim et al. Biomarker Research (2025) 13:114) されており、これらを解決するのはとても至難の業です。

これらの病因の確定診断から治療までを解決するための新たな事業を始動する予定であり、具体的には四拠点活動を始めます。

函館分析化学研究所、弘前生命科学研究所、大阪生命科学研究所の構想、そして川崎市新百合ヶ丘の自宅の四拠点生活を予定しています。

函館分析化学研究所の設立目的は、コロナに限らずあらゆる mRNA ワクチン後遺症や致死の細胞、分子レベルでの原因解明、次世代型シーケンズ解析など分析機器を駆使し実施することです。検体は、国内外から集め、高精度に分析、確定診断ができるようにします。

弘前生命科学研究所と大阪生命科学研究所は、全国の医師から既に提案を受けている創薬テーマをコラボすることでがんの分子標的薬や炎症を中心とした免疫異常の治療が目的の創薬などの分野で展開します。

同窓諸氏に於かれましては、以上の情報もご参考にいつまでもお元気に青雲同窓会にご参加ください。



史跡〈志苔館跡〉より津軽海峡を望む

50年振りの函館暮らし 日々海峡を望みながら



平成17年 総会にて
故中村名誉会長と一緒に撮影

幸正 純治
(東高19回生)



私は函館に生を受け、新川小学校・深堀中学校を経て昭和41年東高に入学。庭球部に所属し日々の高校生活は友情にも恵まれ、今でも鮮やかな記憶と共に感慨深い思い出としてあります。卒業後、大学進学のため上京しましたが、その当時盛んだった演劇に魅了され、バイトしながらの演劇活動となりました。紀伊国屋ホール・本多劇場の舞台に立てたのは素敵な思い出です。

ところが30歳半ば、バイク事故で身障者になってしまい、その後、建築関係の会社で働くこととなり千葉県白井市に転居しました。地域の自治会活動等で福祉・環境問題に関わることとなり、市政への関心が高まり、議員を目指しました。市議選挙の際、故中村名誉会長を訪れ、白井市などご存じないのしょうと申し上げ

げたところ、「知っているよ。僕の病院があるからね。」と言われ、ビックリしたのを覚えています。

議員就任後、母校の精神「青雲の志」を忘れることなく、合併に伴う住民投票の実施、議員定数削減の実現等、一所懸命、議会・行政改革に注力してまいりました。ところが3期目になったころ、最愛の妻に先立たれ、少しずつ気力も失うこととなり、多くの要職を得ましたが、4期16年で議員生活を終えることとしました。

そこで令和元年、望郷の思い捨てがたく、50年ぶりに函館に還ってまいりましたが、思いがけなく令和3年秋の叙勲で「旭日双光章」を拝受することとなりました。それをきっかけに我がふるさと函館のお役に立ってからのこの地の土に還ろうと思い、志海苔町会長をお引き受けし地域の

ために働こうと決心いたしました。

長年良質な昆布漁の漁港として発展してきた志海苔町には「志苔館」(しのりたて)という中世の史跡があり、「続日本百名城」に選ばれ観光客も増えてきています。晴れの日には津軽海峡の向こうに下北半島を眺望できます。



何か今回のテーマ「二拠点」とは少し視点が違うかもしれませんが、「関東」と「ふるさと函館」双方の空気を味わった私なりの寄稿とさせていただきます。関東でご活躍の皆様のご健勝を祈ります。

二拠点を考える

東京と函館に橋をかける

伊藤 俊一“ムートン伊藤”
(東高46回生)



「お笑い芸人になりたいです。」担任の渡邊先生に進路相談で胸の内を明かしてからはや30年。お笑い芸人として大成したかと問われたら答えは「NO」ですが、好きなことを30年続けてこれたのはとても幸せな事だと思っています。

現在松竹芸能でお笑い芸人をしていられるのですが、先日我々の期が同窓会の幹事の順番ということで、ネタと抽選会の司会をやらせていただきました。同窓生の皆様の前でステージに立てたことはとても貴重な経験でした。

その時の壇上でもお話しさせていただいたのですが、父、母、姉、私全員東高校卒業生という青雲一家なんです。現在色々ありまして函館で一人暮らしをしている父がもう77歳になり、まだ元気なのですが今後のことを考えるきっかけとなりまして。

父もいつ体調崩してもおかしくない年齢になったこと。

改めて函館という素晴らしい街の魅力を発信したいと思ったこと。

函館と東京の二拠点で活動している先輩がたくさんいると言う事実を知ったこと。

函館にもっとお笑い文化を広めたいと思ったこと。

以上の4つの思いが私を突き動かしまして2026年より東京、函館の二

拠点生活を始めることにしました。「お笑い芸人になりたいです。」と言った18歳の自分を思い出しました。30年経った今あの頃と同じ、いやそれ以上にワクワクしている自分に気がきました。

あの時は一人きりで上京しました。でも今は仲間がいます。ピン芸人として活動する傍らスーパー銭湯お笑いユニット「強烈」のメンバーでもあります。どこかで聞いたことある?って思った方ご安心を! 純烈さんから

公認いただいています。温泉街としても有名な函館を盛り上げることも新たな目標になりました。

青い雲は海を超えて、やがて虹となる。東京と函館に夢の橋をかけよう。それが僕の人生の後半戦の大きな夢です。

函館の美味しい食べ物、美しい景色、温かい人柄、轟真目なして日本一だと思えます。

命かけたい海の街。そんな街です、函館。



【寄稿】

函館Uターン紀行₃

「この本を読んで、函館に帰りたくなりました」。そんな感想をいただくたびに、『函館Uターン紀行』を書いてよかったと思う。自分が感じている函館の魅力が、他の人にも共感してもらえたことがたまたま嬉しい。

函館にUターンして、もうすぐ5年。まだ東京で暮らしていた2020年10月から、北海道新聞・みなみ風で連載させてもらっているのが、『函館Uターン紀行』というエッセイだ。コロナ禍の東京で函館に戻ることを検討しはじめたところから始まり、家族5人で函館旧市街に移り住み、自分たちの手で自分たちの暮らしを作る日々を綴っている。連載開始から5年が経ったのを機に、これまで書いてきた60本の原稿を再編集し、休載した月の分を書き下ろし、新たに家族インタビューとその後の小話を加筆した完全版として書籍化

した。

書籍化を進めるなかで思ったことがある。それは「書き残してなかったら忘れていた感情がたくさんあった」ということだ。スマホのカメラロールには何気ない日常の景色がたくさん残っているが、そのときに自分が何を感じていたのかは言葉にしておかないと失われてしまう。娘が転校初日に抱えていた不安、妻が念願の美容室をオープンしたときの高揚感、住宅ローンを組んで家を買うことのプレッシャー。そういう日常の場面で湧き起こった感情が事細かに綴られていて、読み返しながらUターン生活を追体験するような感覚だった。函館を舞台に、地域に根を張って暮らす苦楽が詰まった1冊になったと思う。自分が生きた証のような本だ。

この本を作ろうと思った動機のひとつに「街の人と体重を寄せ合える



阿部 光平（東高50回生）

■プロフィール

1981年、北海道函館市生まれ。大学卒業を機に、5大陸を巡る世界一周の旅に出发。帰国後、フリーライターとして旅行誌等で執筆活動を始める。現在は雑誌やウェブ媒体で、旅行、音楽、企業PRなど様々なジャンルの取材・記事作成を行っている。東京で子育てをするなかで移住を考えるようになり、仲間と共にローカルメディア『IN&OUT-ハコダテとヒト-』【<http://inandout-hakodate.com/>】を設立。2021年3月に函館へUターンをした。

関係性を築きたい」という気持ちがあった。地域でライター・編集者として仕事をするなかで、「取材者と取材対象者という距離感ではなく、もっと近い視点で街の人と付き合いたい」という想いを抱くようになったのだ。そこで考えたのが、「商品を作る」というアプローチだった。商品を仕入れて販売してもらうことで、お店が利益を得る。自分としては、ひとりでは届けられないところに本を届けてもらう。本1冊の利益は決して大きくはないが、そうやってお互いに体重を寄せ合うようなコミュニケーションができるようになったらいいなと思って本を作った。

2025年の12月から販売を開始して、ありがたいことに函館市内のみならず東京や大阪でもお取り扱いいただいている。書店だけでなく、カフェやコワーキングスペース、銭湯にも置



いてもらっていて、いろんな方の手に渡っているようだ。函館以外の街でも、函館の本を仕入れてくれたり、函館の生活に興味を持ってくれる方々がいるのは本当にありがたい。

感想も全国各地から届いていて、とても励みになっている。「もう一度、故郷で暮らしてみたくなった」という函館出身者の方や、「自分が思っ

ている函館の魅力が詰まっていた」という地元の方、函館に来たことのない方から「観光地のイメージがあったけど、ローカルな魅力もたくさんあるんですね」という言葉もいただいた。まるで自分の分身のように、いろんな場所で本が函館の魅力を語ってくれている。

『函館Uターン紀行』は自主出版で

作った本なので、全国の大型書店や大手のショッピングサイトの流通にはのっていない。自分で作り、自分で営業をして、自分で売っている。そのなかで東高校のOBの方々が買ってくださったり、仕入れてくれるお店を紹介してくださったりと、多方面にわたって協力していただいた。同窓の方々とも「体重を寄せ合える関係性」を築けたことは、とても心強い。まだまだ限られた場所にしか届けられていないので、これからもたくさんの地域や人に函館の魅力を伝えられるよう、『函館Uターン紀行』と共に各地を飛び回ろうと思う。

ご興味ある方は、下記からご購入いただくと嬉しいです。
<https://gatebooks.base.shop>



仙台で出店したブックフェアにて。イラストを描いてくれた妹（東高卒）と。



「10期の会」 同期会と母校訪問

東京青雲10期の会
会長 小林 渡洋雄
(東高10回生)

函館東高校卒業10期生は、本年4月より順次85才を迎え、毎年4~5名の物故者が出る年代ではありますが、関東在住者を中心としたこの会は、まだねばり強く毎年都内で同期会を開いています。関東青雲同窓会第2代会長で本会の顧問だった朝倉敏夫さんの2024年6月の死去に伴い、木島会長が顧問に、小林幹事長が会長に、伊関幹事が幹事長という組織変更を実施した初めての同期会を、2025年4月22日(火)に、JR有楽町駅付近の料理店「トコ政」で開きました。函館から参加の2名、埼玉在住で初参加の1名を加え、元気な会員18名が集り、各人の近況報告とそれに対する質疑応答も含め、1年振りの交歓を2時間楽しみました。2次会は近くのカラオケへ。カラ

オケとおしゃべりを楽しみ、来年の再会を約束して散会しました。

10期生の同期会は函館にもあり、こちらの同期会はコロナ感染のため休会状態でしたが、一昨年から再開。2025年は7月16日、関東からの3名と仙台、札幌からの参加者も含め17名が集り、法華クラブで開催されました。半分くらい名前の思い出せない同期生もいましたが、函館に関する情報交換、各人の近況報告等で楽しい一時を過ごしました。

翌日の17日は有志7名で集まり、午前中は新盆に合わせて、朝倉さんのお墓参りをしました。船見町の市営墓地の場所はすぐ分かりましたが、朝倉家のお墓を探し出すまで1時間以上。花束と水を入れた手桶を持ち、猛暑の中、

坂道を上がったり下がったりと、10期生達はへとへとになりました。

午後は母校を訪問。土肥幹事長から紹介された市立函館高校の相馬事務長を訪ね、佐紺校長に花束を贈呈後、持参した我々の卒業アルバムを見ながら思い出話に花を咲かせました。その後、孫の授業参観の様な気分で授業中の教室の脇を通ったり、なつかしい「ひょうろく沼」や「牛舎」の跡を見たり。丁寧な対応に感謝しつつ2時間ほどで退出しました。「函館東高1960年卒業生有志一同」と書いたメッセージカードをはさんだ花束は、在校生が登校時に気がつくよう、学校の玄関ホールに飾られたということです。

「東京青雲10期の会」は先の木島、小林、伊関の3名に、藤山秀樹、中野文子、島田嘉紘、飯田治平、古谷桂子の5名の幹事を加え8名の役員体制で運営しております。1年ごとに仲間が減っていくのは仕方がないことですが、それだけに、やりたいこと、やれることは今やる、という精神で、1名でも多くの会員がこの同期会に出席してくれるよう本同窓会のサポートを受けながら、役員一同もうすこし頑張っていくつもりです。



東京での同期会



函館での同期会



佐紺校長(右から4人目)を囲んで

校舎を後にして



23回生 関東地区同期会 第12回 二三会 開催報告

高橋 喜宣
(東高23回生)

去る10月29日、新橋の新橋亭にて東高昭和48年卒の第12回二三(ふたみ)会を開催しました。コロナ禍以降ずっと中止していましたが、再開することに。参加者は関東を中心に38人。函館から3名、遠くは福岡、山梨からも駆けつけてくれました。「函館なら遠いですが、東京なら何とか来れました」と福岡からの参加者の一人。

この会は21年前の関東青雲同窓会の幹事期(50歳の時担当)に初めて集まったグループです。本部の同窓会がなければ、一度も出会うことがない仲間がほとんど。この年にれば亡くなられた同期も多く、会で分かっているだけでも33名にもなります。でも、プロ



グラムに名前だけ掲載して、黙とうはしないことにしました。

二三会に出欠の返答者だけでも110名。参加できない方々からも「今年から5月より故郷函館に暮らしています。東高卒業以来実に52年ぶり。なんと住みやすいことでしょう 函館は!」など近況の一言もありました。

話題のひとつは、函館にある墓の

墓じまい。家族も親戚も函館にいないからです。しかし、大手企業を辞めて、「山梨で観光バスの運転士をしている」「5年かけて本を出版した」など、様々な近況報告に盛り上がりました。

最後に東高校歌をアカペラで合唱。転調もうまくこなしていました。「仲間を思い出すためにも、できればぜひ続けたい」と一同思いました。



50年

米田 明子
(東高28回生)

1975年に入学した我々東高28回生は、昨年2025年で入学50周年となりました。入学式で出会ってから50年もの間仲良くできているのはすばらしいことです。とは昨年の同窓会での大場昌志くんのスピーチ。そっか、50年かぁ。すごいや、そりゃ。

本来はみんなの還暦を記念して同窓会を開こうという計画だったもののコロナで断念。でもいつかやりたいよね、と函館在住組が幹事会を作り、打ち合わせを重ね、疎遠となっていた同



級生と連絡をとり、形となった2025年6月25日に開催された同窓会は、参加者数150名を数え、入学50周年という忘れられないものとなりました。

同じクラスになったこともなく、普通科と理数科という所属も超えて話が盛り上がるのは、「とんこう」でおもちゃ箱をひっくり返したような高校生活を送ったたまものといえるのかな。

これを機に久しぶりに函館に帰ってきたものも多く、久しぶりの再会はゴルフ、前夜祭という名目の飲み会、ドライブ、と更に遊びの場を広げ、50年という時空を超えたものとなりました。見た目はずいぶん変わったけどね。

5年後か、10年後か、次の同窓会は今回来れなかった人も巻き込んで、また一緒にはしゃぎましょう!



左下から時計回りに11月上旬に上京した滝田君、関東以西のメンバーを取りまとめた吉川君、古希同期会で名司会ぶりを発揮した八巻君と新宿居酒屋で、古希同窓会をサカナに一杯

函館で古希同期会

竹内 清
(東高24回生)

現居住地は、函館が4割、道央と関東がそれぞれ約2割、近畿が5%、東北が2名、名古屋と広島がともに1名。1974年3月に卒業してから24回生が函館に集うのは、今回で3回目。1回目は2011年9月(62名)、2回目は2015年10月(還暦時119名)。毎回、函館在住のメンバーに会場との調整などに尽力いただいています。取り分け今回

は、パンデミック後に東京から函館に戻って生活している滝田君に、大変お世話になりました。

二次会も、滝田君御用達のブルーポイント(行啓通り)でフィーバー!下の写真、左側の岡田さんは札幌在住。兵庫県加東市在住の木口さんとは高校1年生の時から大親友。「何年振りの再会か」は聞き逃しましたが…。私も、小学校から東高まで一緒だった女性と昔話に花が咲く楽しいひとときを過ごすことができました。“人生いろいろ”を実感。感謝です。



2025年10月19日(日)、ベルクラシック函館(五稜郭)で古希同期会を開きました。参加者数は106名。



函館東高校24期生
古希同期会



青雲同窓会 第36期同期会

宮脇 寛生
(東高36回生)

2025年9月14日(日)、卒業して40年を迎えるタイミングで同期会を開催しました。

コロナ禍の影響で延期を余儀なくされ、やっと実現できました。この同期会、「うちの期もやろうよ!」という仲間の一言から始まりました。2期先輩が行った「大人の修学旅行」。34期

の諸先輩方の行動力は凄まじく、【旅行のしおり】まで再現する徹底ぶりに刺激されました。

まずは函館で集まるところから始めようと、函館在住の僕が幹事的な役割を仰せつかりました。SNSを活用し、口コミで広がった事で60余名の仲間が集まりました。場所は西部地区

の金森赤レンガ倉庫群にある函館ビアホール。函館湾と函館山が見え、和洋折衷の建物が多く残る函館らしい街並みを懐かしく感じていただけたと思います。2次会は本町へ。3次会は同期のなじみの店。時間を忘れ、別れを惜しみながら三々五々解散しました。

人の数だけ人生があります。60年近く生きてきた中のたった3年間。あの密度の濃い時間を一緒に過ごした仲間は、顔を見ると一瞬にしてあの時へタイムトリップ出来るのはとても幸せだ



本町での2次会にて

と思います。次は2年後。還暦同期会を予定しています。それまでみんな健康で過ごしましょう。



卒業45年を経て続く 30期の仲間たち

吉野 毅
(東高30回生)

卒業して45年が過ぎた。50歳の時に関東青雲同窓会の存在を知った。当時の幹事長が1年で同級生だった横井(現会長)だった事もあり、同窓会に参加する様になって同期の交流が広がった。

それから14年が過ぎ、一部の仲間たちは部活と呼ぶ活動がある。ボウリング部、馬部、写真部、昼飲み部、俳句部、ゴルフ部など。自分が入っているボウリング部では、毎年、伊豆高原宿という旅行がある。昨年は札幌、青森からの参加も含め男女12名だった。東京から踊り子号で片道2時間、大人の修学旅行的に盛上がる旅。車中ではビールはもちろんの事、ワインに日本酒も空け、現地の

ホテルでボウリングをする。その後は温泉に入り、夜は各自が持ち寄ったワインや日本酒にツマミで盛上がる。

また、昨年10月に函館で行われた4年遅れの還暦会は一大イベントだった。2019年の函館写真部との集まりで話題になったのがスタートだがコロナ渦で断念。すでに還暦を4年過ぎて



ボウリング部 伊豆高原宿



「還暦+α」の会 校歌熱唱

αの会と名付けた。幹事は函館在住者を中心に札幌と関東からも選出、自分は関東幹事の一人だった。

幹事LINEが作成されアイデアを出し合う。連絡方法、案内、集計、会場の手配等々、函館の幹事達を中心となって実施に漕ぎ着けた。開催当日は道内、関東、東海から約130名の同期が集まった。45年振りに集まった同期たち、懐かしい話題に盛り上がり2次会、3次会・・・と宴は続いた。前夜祭、後夜祭を行ったグループもあり、よく肝臓が耐えたものだ。この機に作られた約130人のLINEグループでは今もコミュニケーションが続いている。

同期との集まりは純粋に楽しい時間だ。あと5年も過ぎると古希を迎える、これからもこの交流に加わってほしいものだ。



函館ビアホールにて

東高34回生”還暦”記念同窓会 in 函館!

1 2025年11月1日、朝8時40分 60名が母校へ登校
同窓会当日大雨・強風! 誰かの日頃の行いか?

星 滋子先生の《還暦記念授業》
まずは全員の名を読み上げ出席を取る。



昂を歌う(佐藤)

34回生 還暦記念授業を終えて 星 滋子

辞令交付で「後輩の指導に骨を埋めて下さい」と言われ母校の教壇に。懐かしく嬉しく教室の壁や窓枠をそっとさすったものだった。生徒は本当にめんこかった。しかし部活動に付き合うと土曜も日曜もない。ある夏休みは3日しか休みがなかった! 60歳で東高2度目の卒業をし日曜日が自由になりクリスチャンになった。その教会で出会った姉妹から函館YWCA生涯学習講座の講師を頼まれ、2004年4月から「文学講座」を始めて今も続いている。開講から22年、今や受講生の最高齢は89歳、今年は90歳になる。彼女達のパワーがすごい。34回生から還暦記念授業の依頼を受けた時、これから再び同じ干支をめぐる還暦の元生徒達に、このオールドパワーをぜひ伝えて「はなむけ」にしたいと思った。さて当日集まった元生徒達はおよそ60人。まずは出席点呼。誰もみなしっかりと「ハイッ!」高校時代よりも元気が良い。枕草子「星はすばる」-私の話にもみんなノリノリで雰囲気盛り上げてくれる。私の「はなむけ」は伝わったかな? 最後に「昂」を歌ってもらうと自然に合唱に。「いとをかし」楽しい時間だった。私の大切な宝物がまた増えた。幹事団の細やかな配慮にも感謝!

今も、高く張りのある美声。
授業は枕草子「星はすばる」
”星”ゆえに・・・?



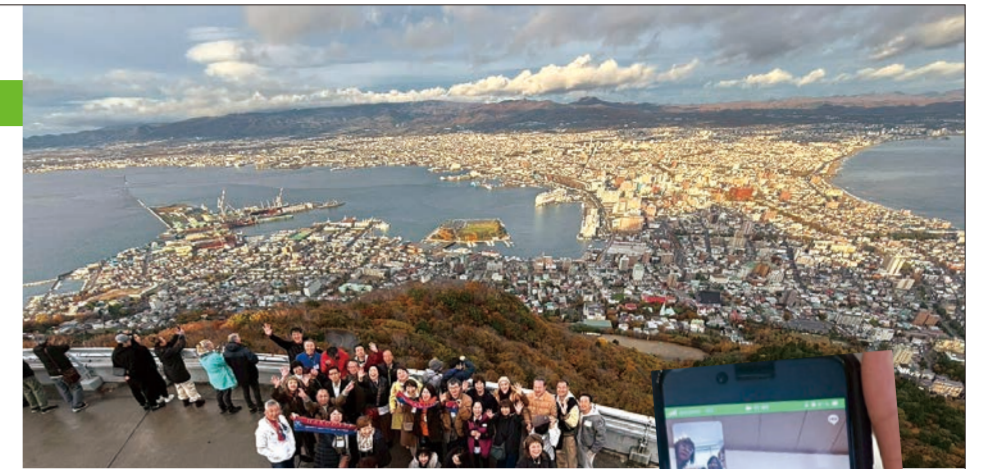
星先生お手製の「教科書」。
枕草子や還暦についての
詳細資料を全員分ご用意
くださり、ヘブライ語からの考察にまで及ぶ。
先生の見識と語りにもっと長く受講したかったほど!

星先生を囲んで



2 貸し切りバスで
午後《地理巡検》
⇒ 赤レンガ・西部地区
⇒ 函館山へ

学校を後にして五稜郭タワーへ移動。
昼食を食べた後に地理巡検スタート。
夕方、函館山山頂に上ると午前中の大雨がうそのように快晴に!
誰かの日頃の行いの賜物か? 雨上がりの夕陽に輝く街とみんなの表情。



五稜郭タワーにて



函館山山頂にて



スマホde遠隔参加

3 18時 湯の川温泉「花びしホテル」100名越えの《大宴会》

函館東高 34回生 還暦記念同窓会 2025年(令和7年)11月1日



またまたお揃いTシャツ(38色から自由選択!), カレッジマフラータオルを作りました。

5年後、10年後、また会おう!(次回はどこだ?)



応援団・バンド部の「校歌」ビニール傘で演舞



ツモリー・マーキュリー
「We will 60!」
開会宣言



素晴らしい仕事をしてくれた幹事チームに大大大感謝!

同窓会って本当にいいものですね! 記: 佐藤 信吾 (東高34回生)



渋谷の「最先端」を函館へ。 関係人口を創る 二拠点生活

松久保 侑馬
(市函5回生)



現在、月の半分を渋谷、もう半分を函館で過ごす「二拠点生活」を送っています。これは単なる往復ではありません。渋谷にある「最先端の情報」や「人脈」を函館へ還流させ、新たな関係人口を創出する。それが、私がこの生活を選んだ戦略的な理由です。

最大の目的は「地元就職率30%」の実現です。函館の大学生の地元就職率は直近18.7%まで低下しまし

た。若者の流出が止まらない現状を変えるには、既存のやり方では不可能です。そこで「HAKODATE KAKKI」を立ち上げ、学生と地元企業を接続し、函館で働く「勝ち筋」を可視化。2026年1月には440名超の学生を動員し、熱狂を生み出しました。

しかし「前例がない」と足踏みする地元の空気を変えるには、首都圏で活躍される皆様のような「外からの影

響力」と「後押し」が不可欠なのです。そこで先輩方にお願ひです。どうか若者のスポンサーになっていただけないでしょうか。運営費や食事提供など形は問いません。皆様からの温かいご支援が、学生たちの挑戦の土台となります。

二拠点の強みは「すぐに会える」こと。私は普段、渋谷の出資先・日本酒居酒屋「瓶々(べべ)」に居ります。まずはそこで膝を突き合わせ、一杯飲みながら函館の未来を語り合いませんか。

皆様の「故郷への想い」を、ぜひ具体的なアクションへ。ご連絡を心よりお待ちしております。

【連絡先】
090-6694-9717
matsukubo@kakki.group

願ひから、市函十期生の同窓会を企画し、立ち上げを決意したのです。

準備の過程では、相次ぐキャンセルに心が折れそうになる瞬間もありました。けれど当日、会場で懐かしい顔ぶれを見た瞬間、しんと凍りかけていた心は呆気なく溶けていきました。

数年の空白を飛び越え、先生や仲間たちとあのときのあの温度で話します。画面からは絶対に掬い取れない、そこに誰かが存在する、替えのきかない手触り。効率だけを求めていたら、この温かさに触れることはできなかったはず。

この灯火のような実感を胸に、私たちはまたそれぞれの場所へと帰っていきます。次に集まるとき、もう一回り大きくなった仲間とどんな言葉を交わせるのか。今からその未来が、楽しみで仕方がありません。



市函十期生同窓会 ～画面から離れてあの日に戻る～

河野 拓真
(市函10回生)

タイパにコスパ。効率こそが正解だと、世界は正義を押し付けてくる昨今。たしかに画面をなぞれば、誰かの

「今」は簡単に手に入ってしまう。それでも、私はあの濃密な三年間に共にした仲間と再会したい。その純粋な



市立函館高校(いちほこ)、 19歳になりました

市立函館高等学校長
佐紺 摂子

令和7年4月に第8代校長として異動してまいりました。よろしくお願ひいたします。

関東青雲同窓会の皆様の弛まぬご努力に敬意を表し、さらなる飛躍を心よりお祈りいたします。また、日頃より、本校の教育活動に對しまして、様々なご支援・ご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

本校は函館東高校と函館北高校が統合し、平成19年に普通科単位制の高校として開校し、今年で19回目の卒業生を送り出しました。令和8年度には、市立函館高校として創立20周年を迎えます。今後とも青雲同窓会の皆様のお力添えをいただけますと幸いです。

さて、本校は、令和7年度に各年次5学級が完成し、計15学級となりました。函館市内の道立高校では、南茅部高校が令和9年度に募集停止となることや、令和元年度に函館稜北高校と函館西高校が再編統合し、統合新設校となった函館西高校が令和10年度に1学級減の5学級の募集となるなど、地方都市での少子化は深刻なものとなっています。各学校には、学校教育の維持とその質の保証に向けた取り組みが求められており、本校においては、多様な生徒の興味・関心や特性などを踏まえて、特色・魅力ある

教育活動に取り組んでいます。昨年7月5・6日には柳星祭を開催し、下の写真のとおり、多くの保護者・市民の方に函館東高校の伝統でもある行灯を披露することができました。他の取り組みの写真も掲載しましたので、ご覧ください。

教職員とともに、育てたい生徒像として、「世界に目を向け、新しい時代を生き抜くことのできる生徒」を目指し、「育てたい6つの力(①主体的学習力②基礎力③思考・分析力④発信・表現力⑤自己認知・協働



卒業生 成迫 萌桜さん(東京芸大4年) 令和7年度 吹奏楽局定期演奏会客演

力⑥計画実行力)」の育成に取り組んでまいりますので、同窓生の皆様には、今後ともご支援・ご協力をお願ひ申し上げます。



2025関東青雲同窓会 総会・懇親会を振り返って



関東青雲同窓会
副会長 宮川 博昌
(東高34回生)

私自身45歳から関東青雲同窓会と
のご縁が始まりました。50歳になる
先輩方の学年ごとのカラーや年間行
事の違い、歴史を知ることになりまし
て、段々と年齢の違う皆さんとの同
窓会に興味を持つようになりました。

コロナ禍でズレてしまった今回の
担当幹事学年は41回生。都合が合う
方が少なく、女性1人で頑張ってくれ
ました(こうやって汗を流した同期の
仲間達が翌年から同窓会参加者に
変わってまいります)。

昨年の総会には「梅谷先生の凧」
を受け継いでいる皆さんが参加。毎
年葛西臨海公園でBBQを楽しみな

がら、あの連凧を揚げていたそうで
す。しかも一昨年の「青雲真っ盛り」で
も紹介した通り、モンゴルで現地
の子供達と凧製作や凧揚げを共にする
現地泊のツアーを行ってきたという
のですから! 恐るべし「連凧の様な
連帯感」。それとも梅谷イズムか?

その後の恒例「クイズ大会」には
先輩から数々の賞品をご提供いただ
いたのですが、それがまた東高らし
いと思いました。ある先輩からは「大
切にしてきた函館に纏わる本コレク
ション」だったり「五島軒カレーセッ
ト」だったり。東高OBの函館愛が随所
に溢れている会だと思いました(因みに、
このクイズ大会は他校がマネを
するくらいの人気の高い企画です)。
また、今回は市立函館高校同窓生の

参加者が増えてきたこともあって、
最後に全員が酔いしれて歌う校歌に
「市立函館高校校歌」も加わり、私の
目には「市中→市高→東高→市函」
と母校の歴史が脈々と引き継がれて
いるように映りました!



参加してくれた市函卒業生たち

いつも我々同期は「関東青雲同窓
会」を1次会に、「同期の会」を2次会
として楽しんでます。皆さんも様々な発
見や変化が楽しめる関東青雲同窓
会を覗いてみてはいかがでしょうか。



モンゴルでの思い出を語る佐々木さん



ホテルルポール麹町にて

コロナ禍、海外駐在を経て また皆さんとお会いできる喜び



清宮 麗子
(旧姓:成田)
(東高37回生)

関東青雲同窓会新年会の参加は初
めてでしたが、毎年5月に開催されて
いる総会の雰囲気そのままにアット
ホームな会、楽しいひとときでした。

私事ですが昨年の七月まで、夫と
共に台湾の高雄で暮らしていました。
長いようで短かった三年半、私共が
住み始めた頃はコロナ禍で日本から
出国する際も大変だった事を憶えて
います。

夫婦二人で初めての海外旅行がま
さかの台湾駐在、時期が時期だった
為、台湾松山空港に着いてシャワー
の様に消毒用アルコールを全身に浴
び、完全防備の運転手と高雄までノ
ンストップのタクシー移動で隔離ホテ
ルで1人2週間。これが最も辛かった

思い出かな?

その後新居に住み始めました。日
本で普通に苦もなくしていた色々な
事が言葉が通じないということにな
かなか進まなかったこと、トホホ…。
とはいえ時間とともに生活にもだい
ぶ慣れて、現地でも台湾人の友達が
できて、近所のスーパー、セブン、ファ
ミマの店員さんと顔見知りになり、
簡単な会話が交わせるようになりました。
まさか海外で生活するとは夢
にも思っていなかったので、よく夫婦
共々ここまで頑張った! 自分で自分を
褒めたいと思いました。

ようやく生活が楽しくなってきた
頃、日本への帰国が決まりました。
日本に戻ってきて3ヶ月になりますが
台湾での生活は現実だったのか? 今

はすっかり元の日本の生活、夢の中
にしているような感覚です。

37期の同期の仲間とはグループ
ラインを通じて台湾でも交流していま
した。地震や台風の時、すぐにライ
ンでメッセージ、心細い時、さみしい時
はよく励ましてもらいました。とても
心強かった、有難かったです。

コロナで数年同窓会が開催できな
かった頃のことを思うと、またこのよ
うに皆様とお会いできるようになって
本当に良かったと思います。

今後とも微力ではございますが、
お役に立てればと思っています。



グレースバリ銀座店にて

2025年(令和7年)5月31日 総会・懇親会 出席者 (敬称略)

●ご来賓(役職は当時のものです)

氣田 聖大 函館市経済部長	松永 久 函館中部高校 白楊ヶ丘同窓会 東京支部 支部長
岸 寛樹 青雲同窓会 幹事長 東高42	佐藤 雅英 函館西高校 つじヶ丘同窓会 東京支部 副会長
斎藤 晋吾 青雲同窓会 札幌支部長 東高22	道下 佳拓 函館商業高校 東京函商同窓会 会長
板倉 恵美 東海青雲同窓会 会長 東高16	本間 和吉 函館工業高校 函工同窓会 関東支部 支部長
細田 雅人 関西青雲同窓会 会長 東高28	

市中5 池田 義夫	東高24 竹内 清	東高31 加茂 千恵子	東高35 山形 裕之	東高40 西 早哉佳
市高2 沼崎 貞良	千歳 芳充	宇野 玲子	青嶋 宏	平野 千香子
東高2 成田 恭子	吉川 範明	小早川 明也	川崎 都子	西沢 孝光
ご同伴 成田 幸孝	東高26 紀國 仁	塚田 善彦	山岸 ゆりか	木下 弥寿生
東高3 厚谷 襄児	佐藤 司	東高32 赤間 美樹	濱野 珠江	佐藤 健幸
東高10 小林 渡洋雄	葉多 由紀恵	金澤 慎司	畑中 正視	山内 麻奈美
東高11 船坂 美以子	東高27 駒木根 淳	丸伊 宏子	藤巻 正人	東高41 河野 松田 志暢
東高12 新山 春一	木原 仁	東高33 北村 雅樹	金札 謙治	市函1 松久保 侑馬
東高12 杉本 常三郎	尾崎 光則	西岡 由紀子	小松 慎司	市函5 小林 昂平
東高14 伊勢谷 由美子	利隆 丸山 忠美	霞 修治	塩越 佳奈	市函10 児玉 亮
東高15 中川 和彦	東高28 安田 由美	丸山 忠美	中野 雄一	河野 拓真
東高16 檜森 兄元	大場 昌志	東高34 土肥 健作	小池 高橋 和佳子	
松野 美智子	村山 雄一	宮川 博昌	高橋 小形 忍	以上115名
増野 建一	大山 久人	窪田 志保子	野村 雄次	
山崎 英貴	東高29 横井 透	辻 峰子	野村 修一	
山本 眞里子	古川 清志	西村 眞樹	西田 正尚	
羽場 静子	波岡 伸一	佐藤 信吾	山内 史	
東高19 小川 利勝	小原 ゆかり	山田 宜裕	佐藤 麗子	
東高20 松原 秀樹	東高30 落合 浩一	村中 満	佐藤 礼子	
東高20 岡安 恵美子	橋本 裕美	千葉 真弓	島田 依里	
宮林 葉子	藤塚 雅之			
佐々木 美幸	前川 裕昭			
東高22 亀谷 聡	吉村 宗則			
東高23 高橋 喜宣	小鼻 章夫			



2026年(令和8年)1月31日 新年会 出席者 (敬称略)

市中5 池田 義夫	東高27 木原 仁	東高31 加茂 千恵子	東高34 山田 宜裕	東高37 清宮 麗子
東高10 古谷 桂子	上口 孝之	宇野 玲子	土肥 健作	野村 雄次
金柿 陽子	駒木根 淳	小早川 明也	宮川 博昌	米坂 修一
小林 渡洋雄	東高28 小田 利隆	塚田 善彦	窪田 隆雄	西田 正尚
東高11 新山 春一	東高30 塚田 雅文	東高32 赤間 美樹	窪田 志保子	東高40 西 早哉佳
東高12 佐藤 妙子	横井 透	金澤 慎司	辻 峰子	平野 千香子
杉本 常三郎	古川 清志	東高33 真田 美苗	小室 博之	山内 利枝
東高16 檜森 兄元	波岡 伸一	北村 雅樹	酒井 信吾	酒井 収一
小杉 茂美	中川 孝子	西岡 由紀子	村中 満	市函5 松久保 侑馬
東高18 北原 恵一	小原 ゆかり	霞 修治	坂井 秀樹	市函10 河野 拓真
東高19 小川 利勝	東高30 落合 浩一	平野 秀人	青嶋 雄一	平藤 巧也
東高23 高橋 喜宣	管 麻子	藤澤 伸悦	山形 宏	以上71名
東高24 竹内 清	橋本 裕美	丸山 忠美	川崎 謙治	
東高26 紀國 仁	村木 英一		川崎 都子	
佐藤 司			山岸 ゆりか	
			塩越 佳奈	



中野 雄一 (東高35回生)

青雲 BBQ大会2025 に参加して



2025年9月20日の青雲BBQ大会も大いに楽しみました。

初参加は2024年。インスタで偶然見つけて申し込んだところ、SNS経由の参加は珍しかったようで「インスタで来たの?」と何人もの方に声をかけていただき自然と会話が弾みました。懐かしいジンギスカンの匂いとベルのたれ、函館クイズ、そして久しぶりの函館弁で気分は一気に神宮外苑から函館に。

そして昨年は二度目の参加、その間の新年会などでも顔を合わせていた懐かしいメンバーとさらに盛り上がり、これが学生時代の友人の素晴らしいところと実感。

在学中は部活に入っておらず先輩・後輩との接点は多くありませんでしたが、自由でのびのびとした東高の校風のおかげで、初対面の方々ともすぐに打ち解けることができました。

現在はアパレルや飲食店を展開

する会社に勤務、転職せずに働き続けられたのも自由で前向きな風が東高の空気と重なっていたからかもしれません。

この素晴らしい校風を築いてくださった代々の先輩方、青雲同窓会を運営されている皆さまに心より感謝をしています。

58歳で出会えた仲間とのご縁を大切に、これからも皆さんと楽しい時間を過ごしていきたいと思えます。



関東青雲同窓会 副幹事長 西 早哉佳 (東高40回生)



前列左から 廣瀬 (TMG) 古谷 (10回生) 神保 (元戸田市長) 小林 (10回生) 小田 (28回生) 西 (40回生)
後列左から 鶴賀 (30回生) 本間 (32回生) 袴田 (34回生) 金澤 (32回生) 小田 (28回生) 日下 (28回生) 青嶋 (35回生) 土肥 (34回生)

2025年11月14日 江戸崎カントリー倶楽部にて、第10回 中村杯ゴルフコンペを開催しました。今回は10回生から40回生まで4組13名が参加。11月中旬とは思えないほどの暖かさで、男性なら途中から半袖でも良いくらいの絶好のゴルフ日和となりました。

今回は、故・中村隆俊名誉会長と所縁の深い元戸田市長の神保国男さんが初参加。私自身も今年度より同窓会役員となったことをきっかけに、初めて

参加させていただきました。

上位陣を除くと混戦(乱打戦?)となり、順位が目まぐるしく入れ替わる展開に。同窓の先輩方と会話をしながらのプレーは、他の同窓会イベントとはまた違った魅力がありました。

優勝は、安定したプレーを見せた神保さん。参加者全員に景品が用意されており、私はビギナーズラックで、花器とワインという立派な景品を2つもいただき大満足で帰路につきました。

本コンペは、プレー代・パーティ代込みでおおよそ15,000円前後、毎年11月第2金曜日の開催を予定しています。ゴルフの腕前や卒業年次を問わず、気軽にご参加いただけます。案内をご希望の方は、下記メールアドレスまでお問い合わせください。

E-mail: kantouseiun@gmail.com

みなさまのふるってのご参加をお待ちしております。

【寄稿】



においから何から、大好きな街

シチリア料理〈ロツツオシチリア〉
阿部 努
(東高43回生)

皆様、初めまして。阿部と申します。東高校では、中道に住み五稜郭公園の外堀を通学路として、ラグビー部に所属していました。今は東京でイタリア料理屋を営んでいます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

函館を遠く離れ、東京で暮らしていると、よく、どこ出身ですか？とお互い質問することがあります。この質問が来たら、僕としては待ってました！という状況。「北海道の函館から来ました」と相手に伝えると、ほとんどの人は羨ましそうな顔をして、きれいな景色と、あまたある美味しい食べ物の話をしてくれます。良い思い出しかないみたいです。

そうです。私は生まれた場所の話をただで話が弾む、という日本でも相当希少な場所で生まれました。

父が転勤族だったので、生まれたばかりで札幌へ引っ越し、毎年両親の実家である八雲へは帰っていましたが、高校生活の3年間で初めて函館で暮らしました。3年間しか住んでないのに函館を語るな、

と言われたら全くその通り。たいしたことも知らないまま今まで生きてきていますが、観光者目線で暮らした3年間の高校生活はあまりにキラキラして振り返る中でも最高の時間だったと思っています。そして毎年帰る今でもその観光者目線は変わっていません。

海がすぐ近くにあり、山もある、引越したばかりの函館は一人でも、できたばかりの友達とも、だれと歩いたって絵になる古くて、色気が滲む景色の塊でした。そして何より東高校のあの空気が大好きでした。先生たちはおおらかで、校則もゆったり。同級生は人に対する視点が明るく、グラウンドがやたら広い。

そして一番惹かれたのは、みんなの言葉のリズムと音でした。いきいきとした話し言葉の音の上がり下がり、会話を広げ、想像を広げ、心を広げます。最初はなかなかうまくいきませんでした。1か月ほどで遜色ない出来になったのではないかと思います。

気になって調べてみたら、いまの標準言葉は明治時代に東京の山手

言葉と下町言葉のミックスで造られたらしい。なるほど、音の抑揚、リズム等北から南から様々な方言とは比べ物にならない。落語は下町言葉だから気持ちいい。この魔法のような言葉は、東京に出てきてお店をやってから杖となり、懸け橋となり、毛布となりました。

振り返ると、東高校の3年間は、とっても楽しかったし、今でも腹を割って話せる友達もくれました。息子、娘たちはこれから高校生活を迎えます。何の躊躇もなく高校生活はすっごい楽しいもんだよ、といえるだけの沢山の財産をくれた函館を今でも本当に愛し、誇りにしています。



■ロツツオシチリア
港区白金1-1-12 内野マンション1F
TEL: 03-5447-1955
<https://rozzoponte.jp/concept>
E-mail: rozzosicilia@celery.ocn.ne.jp

【事務局からのお知らせ】

「東京臥牛会」のご紹介

「東京臥牛会」は、函館公立高校5校(東、中部、西、商業、工業)の関東にある各同窓会役員が集まりによる親睦会です。各校の総会懇親会において、それぞれの役員を来賓としてお招きをして、親交を図っています。また、毎年2月には情報交換を兼ねて会合を開き、4月はゴルフコンペを開催しております。

各校同窓会とも、会員の高齢化が進み、且つ、若い人達の同窓会への関心がいま一つであることは共通の悩みであり、「新規会員の獲得」「運営費の改善」「会の継続」が最重要課題となっています。今年の会合でも、各同窓会の活動報告をして、様々な取り組みの話をしました。あらためて、各校の同窓会単体の活動だけでは限界もあるので、「オール函館」として、より一層連携を深めていくことを確認しました。

皆様の身近に、同じ小学校や中学校の同級生で、関東在住の方がいらっしゃいましたら、各校の同窓会をぜひご紹介ください。

2026年(令和8年)2月21日(土)
場所: ニュートキョー 数寄屋橋本店 [2階 ビヤホール]



左列 手前から 横井・渡邊・松永・道下
右列 手前から 本間・土肥・澤出・青木
(敬称略)

函館中部高校 白楊ヶ丘同窓会 東京支部 松永支部長 渡邊副支部長
函館西高校 つつじヶ丘同窓会 東京支部 青木副会長
函館商業高校 東京函商同窓会 道下会長
函館工業高校 函工同窓会 関東支部 本間会長 澤出事務局長

東京青雲10期の会

東高10回生(昭和35年卒業)の皆様、毎年下記の予定で同期会を開いています。お集まりください。

- 日時 毎年4月 第3火曜日 13:00～
- 場所 新橋 新橋亭(しんきょうてい)

【連絡先】東京青雲10期の会 会長 小林渡洋雄
Tel.090-5783-0682 E-mail: toyookoba@yahoo.co.jp

税金、保険のご相談
お待ちしております。

千歳 芳充 税理士事務所

税理士 **千歳 芳充**

(東高24回生)

日本生命保険相互会社代理店

日本ファイナンシャルプランナー協会認定会員

北海道道南会、関西函館をおもう会 会員

〒178-0063 東京都練馬区東大泉6丁目8番28号
TEL: 080-7933-8145 Fax: 03-6733-8426
Mail: chitose.zeirishioffice@gmail.com

函館・道南でのお泊まりは かもめグループで



魅惑と歴史の街
函館・北斗に
11店舗
目的に合わせて
お選びください



インターネット可
デラックスなリラックスを
シーサイドホテル かもめ
函館市宇賀浦町 6-1 ☎(0138) 32-2222

音響バツダンカラオケBAR

カラオケ **響**
BAR (ひびき)
☎(0138) 56-5500
函館市本町3番13号 中央病院前バス停前



ホテル駅前1F

最新カラオケ
音響設備を完備
カラオケ **轟**
BAR (とどろき)
☎(0138) 24-5115



ビジネスに観光に駅から徒歩1分
函館 **ホテル駅前**
函館市若松町 21-8 ☎(0138) 23-3589



大野新道と産業道路交差点
ホテル七重浜向い
ビジネスホテル 北斗
北斗市七重浜6丁目8-22 ☎(0138) 49-9191



北大水産学部隣り 大型車P可
・サウナ有
ホテル ららほと
函館市港町3丁目2-1 ☎(0138) 42-1777



流通センター入口
きららで元気
きららでリラックス
ホテル きらら
函館市桔梗1丁目26-1 ☎(0138) 47-7771



5号線トヨタ本社向い・サウナ有
ホテル きたぐに
函館市昭和2丁目41-30 ☎(0138) 42-1732



癒しをつつむ **岩盤浴**
源泉 100%かけ流し
海の川温泉 **ホテル かもめ館**
函館市湯川町1丁目5-18 ☎(0138) 59-2020



映画テレビドラマの撮影で
おなじみの八幡坂眺望は最高
ホテル 八幡坂
函館市元町 31-16 ☎(0138) 26-4891



シャワールーム完備
ホテル ぼくんち
函館市宝来町 17-14 ☎(0138) 21-1717



安らぎのひと時を
函館駅から徒歩6分
ホテル ハートイン
函館市東雲町 13-7 ☎(0138) 23-4181



イオン上磯店向い・サウナ有
ホテル 七重浜
北斗市七重浜5丁目1-33 ☎(0138) 49-9111

かもめグループ代表取締役 **成田 (旧姓: 溪本) 恭子** (東高2回生)

はこだて観光大使
関東青雲同窓会 顧問

新山 春一 (東高11回生)

Tel/Fax. 03-3447-5399
携帯電話. 090-8817-9318

函館東高16回生一同
(昭和41年卒業)



杉本 常三郎
東高12回生



佐藤 妙子
東高12回生

2025年11月

小水力発電のすすめ
日欧の地理的・文化的比較から

を出版しました。日本各地や欧州を5年間かけて取材。各種通販でも、定価1760円で販売中です。

東高23回生 **高橋 喜宣**



能美防災グループ
システムサービス株式会社

取締役相談役
田中 由彦
(東高30回生)

取締役統括本部長
筆染 恭介
(東高39回生)

〒003-0809 札幌市白石区菊水9条3丁目2番31号
Tel. 011-811-2223 Fax. 011-824-3487

函館東高校27期生 関東地区同期会

幹事 **上口 孝之**
(東高27回生)

E-mail: kamiguchi@wish.ocn.ne.jp

青雲さっぽろ

札幌は「アカシアのつどい」で今年もお待ちしております。

2026年9月5日(土)に開催予定!!

時間や会場など詳細は改めてご案内いたしますので宜しくお願いたします。

青雲同窓会 札幌支部 支部長
齋藤 晋吾 (東高22回生)

〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条5丁目1-11
青雲同窓会札幌支部
FAX.011-211-5606 acacia@seiunsapporo.com
www.seiunsapporo.com

函館東高等学校
東海青雲同窓会
会員一同

名古屋でまってるよ!!



事務局
〒475-0828 愛知県半田市瑞穂町3-3-10
会長 板倉 恵美
arjzk09883@yahoo.co.jp

直行! トムハウス

新千歳空港から高速バスで50分
札幌ドームまでは徒歩20分

ひとり旅に、家族旅行に、便利なゲストハウスを。

Tom house Sapporo

二段ベッド 共用 4台
一人利用 **3,300円**(税込)
二人利用 **5,500円**(税込)

大瀧 比呂子
(東高26回生)

札幌市豊平区西岡3条5丁目1-11 Tel.090-6213-8692
tomhouse_sapporo@yahoo.co.jp
Facebook Tomhouse sapporo

税理士
青嶋 宏
(東高35回生)

七福会計
青嶋宏税理士事務所

〒114-0022 東京都北区王子本町1-23-1 ヴェージュカワジ 502号室
Tel:03-6454-3880 / Fax:03-6802-7608
携帯:090-3697-8835 Mail:aoshima-h432@ezweb.ne.jp

LE BOURGUIGNON

Yoshinaru KIKUCHI
菊地 美升
(東高35回生)

ル・ブルギニオン
〒106-0031 東京都港区西麻布3-3-1
Tel.(03)5772-6244 <http://le-bourguignon.jp/>

住宅/飲食店/オフィスビル等の
建築設計/インテリア設計

PODA
一級建築士事務所

京都芸術大学 建築家/代表
講師 田村 秀規
(東高35回生)

東京都渋谷区千駄ヶ谷
1-2-1-403 〒151-0051
■Email info@poda1.com ■Web <https://www.poda1.com> ■Phone 090 7417 1380

【あとがき】

不易流行2.0



関東青雲同窓会 幹事長
土肥 健作
(東高34回生)

先日、日経MJに、私と同世代のライターがGLAYのコンサートで感じたことを綴った記事がありました。そのライターは、たくさんの名曲(グロリアス、HOWEVER等々)が聴けると期待していたところ、ほとんどが新曲、知っている曲は3曲だけだったとのこと。しかしながら、この記事に共感を得たのは、ライターはがっかりするのではなく、既に数多くの実績や

名声を手に入れているGLAYほどのスーパーバンドでさえ、現状維持よりも新機軸に挑戦し、新しいファンの獲得を目指している姿勢は、現代の企業経営においても、かなり重なりと考察しているところにあります。例えば、百貨店業界は、新しい顧客よりも足元の顧客ばかりを重視したことにより衰退し、特に老舗企業に通じるものがあります。生き残りを続けている優れたブランドは、日々価値を磨いて、多少のリスクを恐れず、試行錯誤を続けています。大げさではありませんが、我々の同窓会活動に置き換えてみるとどうなのか。やはり「現状維持」と「新規発展」、この狭間で大変苦労しています。私たちが大切にしたいのは「変わる勇気と変わらない強さ」。まさに「絶え間なくそそぐ」からこそ「永遠と呼ぶこと」が出来るのだと思います。私たち「関東青雲同窓会」は、これからも「不易流行」の精神で、会員の皆様にとってかけがえのない集まりになるように頑張ります。今年度は、いよいよ市立函館高校のOBとの連携をスタートします。どうぞご期待ください。

ウェブサイトやSNSも
ぜひお楽しみください。

会の活動をどんどん発信していきたいと思えます。皆さまからの情報もお待ちしています。

<https://www.kantouseiun.com>

Facebook 
<https://m.facebook.com/kantou.seiun/>



ホーム | ニュース | 役員 | アーカイブ | 検索 | ツウク | お問い合わせ

関東青雲同窓会

北海道函館東高等学校を卒業し、
関東地区に在住する方を会員とした同窓会です。

世代を超えて笑顔が集う

ほんのひととき、昔に戻って笑顔になれるのが同窓会。ホームページで、そんな笑顔を味わってください。

NEW! 2026年新年会、無事終了いたしました!
参加くださった皆さま、ありがとうございました

同窓会開催報告 関東青雲同窓会のイベントをご紹介します

関東青雲同窓会「会則」は
ウェブサイトでご確認いただけます。



関東青雲同窓会役員 [2026年(令和8年)3月現在]

会長	横井 透 (東高30回生・昭和55年卒業)	副幹事長	小原 ゆかり (東高30回生・昭和55年卒業)
副会長	北村 雅樹 (東高33回生・昭和58年卒業)	霞 修治 (東高33回生・昭和58年卒業)	
	宮川 博昌 (東高34回生・昭和59年卒業)	塩越 佳奈 (東高35回生・昭和60年卒業)	
幹事長	土肥 健作 (東高34回生・昭和59年卒業)	西 早哉佳 (東高40回生・平成2年卒業)	
		辻 峰子 (東高34回生・昭和59年卒業)	
		監査役	青嶋 宏 (東高35回生・昭和60年卒業)

【事務局からのお知らせ】

年会費のご協力と新規会員登録のお願い

当同窓会は、皆さまからご納付いただく年会費によって運営されています。年会費振り込み用紙【郵便払込取扱票】が同封されている方は、今年度(2026年度・令和8年度)分の年会費が未納です。総会・懇親会に出席/欠席に関わらず、何卒年会費のご納付をお願い申し上げます。(同封されていない方は、今年度分はご納付済みです。)また、同期のお知合いで未登録の方がいらっしゃいましたら、ぜひ会員登録のお勧めをお願いできれば幸いです。

年会費

1年ごと : 2,000円
5年分一括 : 8,000円
20年分一括: 30,000円

会費納入口座

ゆうちょ銀行 金融機関コード:9900 店番:019
預金種目:当座 口座情報:0118019
口座名:函館東高等学校関東青雲同窓会

※【郵便払込取扱票】には必ず住所・氏名・00回生・00年卒をご記入ください。

重要

昨今、発送費が値上げになっていることから、運営費用に大きく影響が出ています。そのため長年にわたり年会費が未納の方には、総会・懇親会のご案内や会報などの発送を停止させていただきます。引き続き案内をご希望の方は、同封の払込み用紙にて年会費のご納付をお願い申し上げます。なお年会費納付状況は、本状の宛名ラベルに最終納入年度が記載されていますのでご確認ください。ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

年会費 永久会員の
皆様にお願ひです。

過去に年会費の払込みを完了している永久会員の皆様に対し、年会費をお願いすることはございません。しかし、新規会員数の増加が今後もあまり見込めないことを考えると、「協力金」という形でご寄付をいただければ幸いです。関東青雲同窓会を今後も末永く維持・運営していくために、何卒ご支援くださいますようお願い申し上げます。

■同封の振込用紙をご利用いただけます。

募集!

1991年(平成3年)
以降に東高を卒業、
現在関東在住の方。

ご連絡はこちらへ

- 事務局メール kantouseiun@gmail.com
- ウェブサイトお問い合わせフォーム <https://www.kantouseiun.com/contact>
- 電話 090-4429-6060



会報「関東せいうん」発行時に、広告を出しませんか?

会報「関東せいうん」では、皆さまからの広告を掲載しています。次号発行の際に掲載をご希望の方は、まずは下記事務局メールまでお問合せくださいますようお願い申し上げます。 > 事務局メール: kantouseiun@gmail.com

関東せいうん

編集後記



関東青雲同窓会 副幹事長
塩越 佳奈(東高35回生)

同窓会幹事期を拝命してあっという間の10年、その間歴史に残るパンデミックにのみ込まれ、やっと終息が見えかけた矢先に母を見送りました。結果、建て替え引っ越ししたばかりの公営住宅の実家を整理、定年後の函館生活をイメージしていたのもつかの間、故郷での居場所を手放す事になりました。しかし、芸能人の函館拠点の公表や中学の先輩の横浜との二拠点活動など、一

挙に身近な事例(話)が飛び込んできて腑に落ちたのです。元々ニュースタンダードに函館人は寛容な気概があるはず、その思いを役員会議でポロっと口にしたのがこの19号のテーマとなりました。形のない思いを共有し、導き合えるのも同窓会の役割とと思います。同期35回生は2026年丙午の年、還暦を迎えます。学ぶ方から導く側へ上手く成長できるかな?